

# III 研究と広報・社会連携

## — 広報連携センター —

### [概要]

博物館をもつ大学共同利用機関として、大学等との共同研究を推進し、その成果を国内外の研究者から一般市民まで広範囲に発信するとともに、広く社会や学校と連携して博物館の利用が促進されるよう広報連携活動を進めている。歴博の研究活動とその成果の公開に関して理解が広まりかつ深まるよう策定した広報の方針を基とし、以下の広報、出版、博物館活用の活動を展開した。

#### 1. 研究・展示・資源の広報

##### (1) 広報活動

昨年度に引き続き、PR会社を導入して企画展示や教員の研究活動の広報を行い、また企画展示に関連する催しを実施した。

全国版の雑誌、新聞に有料広告を掲載し、企画展示のほかに総合展示についての誘客も行った。

企画展示・特集展示と歴博フォーラムの開催に際し、ポスター、チラシ等を制作し、効率のよい配布やマスメディアへの掲載をはかった。特に、企画展示においては、報道関係者・ブロガー向けの内覧会を展示開始日の前日に歴博で開催し、都内からバスによる送迎も行って、効果的な広報を実施した。これらに先立ち、わかり易くかつデザインを工夫したプレス・リリースを作成・送付し、博物館活動の記事の掲載が増加するよう努めた。また、センター主導により、魅力的なポスター、チラシの製作を推進した。

2012年度から始められた研究広報事業の一つとして、教員2名を選び、インタビュー形式で、最近行っている各自の研究活動内容をまとめ、リーフレットを作成し、ホームページにも掲載した。

ホームページは、企画展示やフォーラム等諸事業の情報を遅滞なく掲載するため週2回の更新を行うとともに、メールマガジンを月1回程度配信した。研究活動に関する情報発信を充実する一環として、共同研究会の予定、出版物の紹介などの枠を新設した。また、YouTube、Twitterによる企画展示の情報発信を開始した。展示や研究などの活動をわかり易く紹介するため、Twitterの配信を行った。

##### (2) 講演会・フォーラム等による研究成果の公開

日本の歴史と文化の最新の研究成果を広く理解してもらうため、年8回の歴博講演会や毎月のくらしの植物苑観察会を開催するとともに、歴博フォーラム等（4回、うち1回は歴博映像フォーラム）を開催した。

また、県立博物館との共催による民俗研究映像のアンコール上映会を2回実施した（千葉県立中央博物館1回、福島県立博物館1回）。

#### 2. 出版活動

刊行された国立歴史民俗博物館研究報告や展示図録を他機関などへ配布した。歴博に関係する研究活動を多方面から紹介する歴史系総合誌『歴博』を隔月で6冊発行した。歴博フォーラムの開催時には、要旨集を作成して参加者に配付したほか、開催後にホームページに要旨集を掲載した。博物館の研究及び事業について網羅した『国立歴史民俗博物館年報』をホームページに掲載した。

#### 3. 博物館活用

特集展示及び企画展示に連動した関連イベントとして以下のものを実施した。

- ・特集展示『もののけの夏—江戸文化の中の幽霊・妖怪—』における来館者交流イベント「錦絵カードを作ろう」と「オリジナル妖怪を描こう」
- ・企画展示『ハワイ：日本人移民の150年とあこがれの島のなりたち』における来館者交流イベント「ハワイ コーヒーセミナー」と体験型イベント「アロハシャツ塗り絵」

#### 4. 学校および社会との連携

博物館で学ぶことの楽しさを体験できる場を目指して2012年度末に開設された「たいけんれきはく」では、主に

小学生以下を対象とした体験プログラムと学習キットを、歴博の教職員が順次拡充している。

歴博の大学共同利用機関としての役割を果たすため、講義やオリエンテーション等による歴博の利用を積極的に受け入れた。2009年から千葉大学国際教育センターと連携して実施している短期留学生によるワークシート作成プログラム「千葉大学・国立歴史民俗博物館 短期留学生プロジェクト」において、夏期に発表会を行い、歴博から学生に修了証書を授与し、2009年から作成した過去のワークシートも含めてホームページに掲載している。

「大学のための歴博利用ガイドー歴博でアクティブ・ラーニングー」に基づく大学の利用実績をホームページ上で紹介した。人間文化研究機構が採用している人文知コミュニケーターの研修プログラムの一環として、歴博の研究・展示を広報するための効果的なアイデアをプレゼンテーションしてもらった。

日本各地の歴史民俗資料館等の専門担当者に対し、専門知識と技能のさらなる向上を目的とした「歴史民俗資料館等専門職員研修会」を文化庁との共催で5日間実施した。毎年の研修生は50名程度であり、継続して実施することによって各地の博物館等との連携をはかれることが期待できる。

小・中学校、及び高等学校の教員とともに、歴博あるいは広く博物館の施設や資料を学校教育の場で活用することを実践的に討議することを目的として、博学連携研究員会議を2年単位で実施し、成果をホームページ上で公開している。

展示を学校教育、生涯教育などで活用してもらうために、学校教員等に対する研修を「先生のための歴博活用講座」として、1日間実施した。

佐倉市との地域連携の一環として、歴博の企画展示をはじめとする各種催事に対する佐倉市からの協力、歴博による佐倉市関連事業への広報・協力活動等を実施して、相互の連携を深めた。佐倉城址公園の活用プロジェクトとして、夜桜のライトアップに際し、佐倉市とは駐車場の確保について連携するとともに、リニューアルした総合展示第1展示室の開室時間を延長した。

佐倉市の小中学校の教員を対象に、「社会科研修会」として、佐倉市教育委員会教員研修を実施した。

夏休み期間等には小・中学生向けの諸行事を実施し、将来にわたって日本の歴史や文化に関心を持ち続ける人たちを育てるための取り組みを行った。

広報連携センター長 齋藤努